

平成 29 年度
学位記授与式 ー学長告辞ー

雪に埋もれていた地面から、草花の緑が見え始め、高田公園の桜もつぼみが膨らんで、吹き抜ける風に春の独特な香りを、感じる頃となりました。

本日、学位記を授与された 265 名の皆さん、修了、誠におめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。また、ご多用のところ、学位記授与式にご臨席を賜りましたご来賓の皆様に、深く感謝申し上げます。

修了生の皆さん、2 年もしくは 3 年間の大学院での学究生活はいかがだったでしょうか。修了生の皆さんが学位を手にすることができたのは、皆さんのたゆまぬ努力があったことはもちろんですが、その努力は、家族、友人、大学教職員、地域の方々や、現職大学院生の方は、上司、同僚、教育委員会や地域の方々など多くの人たちによって支えられた結果ですので、その人たちへの感謝の気持ちを忘れないでいただきたいと思います。

さて、最近、人工知能（AI）やロボットなどの科学技術が産業を大きく変革し、最近では第 4 次産業革命という言葉が良く聞かれます。「蒸気」という新しい動力が出現した第 1 次産業革命。続く第 2 次産業革命では「電気」と「石油」による大量生産が実現しました。第 3 次産業革命では「コンピューター」が登場し自動化が進みました。そして、第 4 次産業革命ではさまざまなモノがインターネットにつながり、それを人工知能（AI）が制御し、ロボットが活躍するようになると言われています。

10～20 年後には国内労働人口の半分近くにあたる職業について、AI やロボットに取って代わられる可能性が高いという推計を、国内の研究所も発表していることなどもあり、今の子供達が日本や世界を支える年代になったときには、想像もできないような社会になっていると思われれます。

また一方で、社会のグローバル化が進み、2020 年に開催される東京オリンピックなどでは、さらにグローバル化を実感することになるでしょう。ちなみに、この会場でも、今年度は 12 名の留学生の皆さんに、学位記が授与されました。

グローバル化は今に始まったことではなく、これまでも海外から技術、文化をはじめ、様々なものが日本に影響を与え、また、日本の様々なものが海外の国々に影響を与えて来ました。これからは、これまで以上に、世界の中にある日本を見つめ、国や地域を考え、自分の置かれた立場を考えることが必要になります。

皆さんには、技術革新の中で逆に人間とは何かを問い、世界を見据えて、世界の人々とともに、人類の平和と幸せのために、自分は何が出来るのかを考えて行くような「気概」を持って頂きたいと思います。

教師として一社会人として、変わらないものや変えてはいけないものは何か、変化に対応しなければならないものは何かを、常に意識して考えて行く必要があります。そして、それらを教育を通して子供達に伝えていってください。

これからの教育においては、子供達の学ぼうとする力や気持ちを、引き出すことができることが重要です。子供達の個性や性格を的確に把握し、子供達が自ら学ぼうとする意欲を高めることが、大きな教育成果につながります。そのためには、教師が人を思いやる心を強く持ち、子供達一人ひとりに誠実に向き合うことが必要です。学校現場では、こなさなければならない用務が多く、教師はきつい職業だという風潮が広がってきています。そのような中では、子供達一人ひとりに誠実に向き合うということが、実際には難しいと言うかもしれません。しかし、それが教師に求められる最大の使命であり、子供達一人ひとりを理解することが、教師としてのやりがいや喜びにつながります。

そして、皆さん、自らが学ぼうとする意欲を持ち続けてください。自ら学び続けてこそ、子供達に学ぶ楽しさや学ぶことの意味を伝えることが出来ます。子供達の学ぼうとする気持ちを引き出すことができれば、子供達はスポンジが水を吸収するように、多くのことを自分のものにします。是非、そのような教師になって下さることを願っています。

本学で学ばれた皆さんは、多くの経験をされ、いろいろな能力を身につけたことと思います。それらの能力は、学校教育現場で役に立つものであり、まさに実践力と言えるものです。また、課題解決のためには、顕在的能力に加えて潜在的能力や教師としての基礎教養も不可欠です。皆さんには、潜在的な能力も十分に培われたものと確信しています。現職の人もこれから教師となる人も、どうか自信を持って教職につき、さらに自らの能力を高めていってください。

これから学び続け、充実した教師生活を送るために、自分を支えてくれる人の存在は欠かせません。時には大きな課題に立ち向かわなければならず、途方に暮れることもあるでしょう。そのときこそ、家族や先輩、同僚、友人などの支えが頼りになります。時には自分が教えている子供たちが、支えになるかもしれません。皆さんには、上越教育大学で出会った友人や教職員、地域の人たちとの強い絆があるはずですよ。もちろん大学もゼミ教員をはじめ、いつでも皆さんに門戸を開いています。遠慮なく大学の門をたたいてください。

最後に、教員をしているものにとっての「気構え」として知られている、作者不詳の詩、「私が先生になったとき」をご紹介します。すでにご存じの方も多かもしれませんが、あらためてお聞きください。

私が先生になったとき

自分が真実から目をそむけて

子どもたちに本当のことが語れるのか

私が先生になったとき
自分が未来から目をそむけて
子どもたちに明日のことが語れるのか

私が先生になったとき
自分が理想を持たないで
子どもたちにいったいどんな夢が語れるのか

私が先生になったとき
自分に誇りを持たないで
子どもたちに胸を張れと言えるのか

私が先生になったとき
自分がスクラムの外にいて
子どもたちに仲良くしろと言えるのか

私が先生になったとき
ひとり手を汚さず自分の腕を組んで
子どもたちにガンバレ、ガンバレと言えるのか

私が先生になったとき
自分の闘いから目をそむけて
子どもたちに勇気を出せと言えるのか

これからも健康に十分注意して、多くの子供たちから慕われ、いつかは先生のようにになりたいと思われ
る教師となってください。皆さん一人ひとりが自らの手で輝かしい未来の扉を開け、人生を充実したもの
とされるよう心より祈念し、告辞と致します。

平成30年3月19日

上越教育大学長 川崎直哉